

抗議の要請文

8月29日の原子力潜水艦トピーカの横須賀入港に強く抗議する。横須賀は原子力潜水艦の母港ではない。原子力潜水艦トピーカはただちに横須賀港から出て行くことを要求する。

米海軍第7艦隊司令官 フィリップス・ソーヤー中将 殿
 在日米海軍司令官 グレゴリー・フェントン少将 殿
 米海軍横須賀基地司令官 ジェフリー・キム大佐 殿

神奈川県労働組合総連合
 新日本婦人の会神奈川県本部
 神奈川県商工団体連合会
 神奈川県平和委員会
 安保廃棄神奈川県統一促進会議
 原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会
 原水爆禁止神奈川県協議会

8月29日午前10時27分、ロサンゼルス級攻撃型原子力潜水艦トピーカが横須賀基地に入港した。今年の原子力潜水艦の入港は13回目、原子力艦船の入港も17回目で通算974回となった。原潜の横須賀基地入港は、8月だけで6回の入港である。過去数年の8月の原潜入港は0回～1回程度であり、今年の入港の多さは異常である。

ロサンゼルス級原潜は、ミサイル発射用の垂直発射装置（VLS）を搭載しており、対水上・対地火力投射能力を持っている。

今年2月2日発表した米政府の「核態勢の見直し(NPR)」は、核兵器を「安全保障に必要」と正当化し、潜水艦発射ミサイル、陸上配備型大陸弾道ミサイル、戦略爆撃機の3本柱の近代化、小型核弾頭や核巡航ミサイルなどの開発を打ち出した。これは、核兵器のない世界を求める人々への挑戦であり、核兵器禁止条約の流れに逆行するものである。

原潜トピーカの横須賀入港は、今後、NPR実施で、米原子力潜水艦に核兵器が搭載され横須賀基地に入港することが懸念される。核密約を直ちに破棄し、核搭載の有無を明らかにするとともに、非核三原則を国是とする日本の港に核兵器搭載艦入港は絶対に許されない。

今回の原潜トピーカの入港は、アジア地域への戦略的な原潜配置で、アジア・太平洋地域へ海洋進出を強めている中国を念頭にした日本近海や西太平洋地域への展開であると考えられる。現在、北東アジアの情勢は、歴史的な南北首脳会談、米朝首脳会談の開催を受けて、朝鮮半島の非核化、平和体制構築に向けた情勢が進行している。これは朝鮮半島や東アジアの平和だけでなく、世界の平和と安全にとっての大きな転換点となるものである。これに逆行しているのが、原子力潜水艦の横須賀基地への入港である。この点で、原潜トピーカの入港がどのような理由があろうとも、東アジアの平和と安全にとって害はあっても有益性はない。横須賀港は米原子力潜水艦の母港でない。原潜トピーカの横須賀港への入港に反対し、ただちに出て行くことを要求する。

首都圏は巨大地震発生の可能性が強まり、地震による原子力艦船の原子炉事故も重大である。米軍は地震や津波による原子力艦船の事故対策を明らかにし、県民に情報の公開を要求する。

横須賀基地を戦争の出撃拠点にし、県民を放射能被害の危険にさらす原子力艦船の母港化、入出港をやめること。原潜トピーカは横須賀港からただちに出て行くことを要求する。

以上